

第1学年 社会科 学習指導案

1 単元名 「世界の諸地域 第3節アフリカ州」

2 単元について

(1) 単元観

学習指導要領では、「地理的分野」の「(1) 世界の様々な地域」の指導事項について以下のように示されている。

(1) 世界の様々な地域

(ア 世界の地域構成、イ 世界各地の人々の生活と環境、ウ 世界の諸地域、エ 世界の様々な地域の調査の四つの中項目から構成)

ウ 世界の諸地域

世界の諸地域について、以下の(ア)から(カ)の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地理的特色を理解させる。

(ア) アジア (イ) ヨーロッパ (ウ) アフリカ (エ) 北アメリカ (オ) 南アメリカ (カ) オセアニア

地誌学習では、対象とする地域の規模の認識が重要である。世界や日本の様々な地域のとらえ方については、形式地域、実質地域、機能地域等様々なものがあり、同様に地域区分にも様々な考え方がある。このような数ある地域区分の方式から、現行の中学校学習指導要領では、基礎的・基本的な知識を定着させるという観点、また汎用性が高いという観点から上記のように世界を六州に分けるという区分方式が採用されている。この州の地域的特色を考える際に、教師が認識しておく必要があるのは、六州の区分方式がかなり便宜的であるということであり、実際にそれぞれの州には何らかの共有する地域的特色があると同時に著しい地域差も存在している。

本単元の学習に先立ち、一つ目の中項目である「ア 世界の地域構成」では大陸と海洋の分布、地球規模での位置関係をとらえ、生徒たちは学習全体を通して大まかな世界地図が描けるようになった。二つ目の中項目「イ 世界各地の人々の生活と環境」では寒帯から熱帯までの地域ごとにそれぞれひとつの都市を取り上げて学習した。その中でアフリカ州は「乾燥した土地に暮らす人々」の小単元でサハラ砂漠周辺のサヘル(マリ：トゥンブクトゥ)の伝統的な暮らしを例に、乾燥帯という気候的条件のもとにある人々の衣食住を取り上げた。今回の単元である中項目「ウ 世界の諸地域」では、すでに(ア)アジア(イ)ヨーロッパを学習したが、これらの内容の取扱いについては、「州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させるようにすること」となっている。各州の学習は、まずその州の面積・人口・GDPの把握をしたのち、中項目ア・イで学んだ基礎的な知識や技能を基盤に自然環境や歴史と文化など、州の様子を大観する静態地誌的なアプローチを行う。後半は、それらの基礎的な知識をもとに州全体を一つの地域としてとらえ、その州に広範に見られる特色ある地理的事象を取り上げ、動態地誌的視点からの学習を進める。この「主題」とは取り上げる地理的事象、既習内容、主題の難易度、生徒の生活景観などを考慮して教師が設定することと定められているが、「アジア州」の単元では主題を「多文化・多民族、そして急速な経済成長」とし、続く「ヨーロッパ州」では主題を「EUの発展と地域格差」として学習を進めた。

本単元のアフリカ州は、人類発祥の地であり、四大文明のひとつであるエジプト文明も歴史的分野で学習している。さらにニュースなどでの報道もあるため、生徒たちはある程度の知識は得ている。古い歴史を持つ地域でありながら、帝国主義の進展によって、1884年のベルリン会議で確認された「先占権」を基本とするアフリカ分割のルールのもと、ヨーロッパの植民地支配を受け、リベリアやエチオピアなどごくわずかな地域を除いては、ほかの州と比べて独自の文化の継承がなされていない。経済的には、

ほぼすべての国において農業や鉱業が産業の中心となった植民地時代から続くモノカルチャー経済を基盤としており、日本をはじめとする先進工業国、新興国の様々な援助を受けているという脆弱な経済基盤が貧困や民族対立など多くの問題につながっている。このことから、この州の特徴を考える動態地誌的テーマを「モノカルチャー経済の課題と今後の発展」に設定したいと考えた。

後述する指導観からもわかるように一般的に中学校1年生段階の生徒のアフリカ州に対するイメージは一面的なものといえるので、このモノカルチャー経済の問題点、課題点を踏まえたうえで解決の取り組みをとらえる地理的思考力の育成をねらいたい。ここでの取り上げる地理的思考力とは、データに基づいた構造的な地域認識から、それぞれの地域の地理的条件のもとに生活が成り立っていることに気付き、一面的ではない正しい地域像を自分なりに説明できるようになることである。

また、世界を六州に分類して地誌学習を行うというこの中単元の過程で、各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、それらは諸条件の変化に伴って変容していくことを理解し、最終的には多様な文化を尊重する態度を身に付けさせることが、教科目標である公民的資質の基礎につながると考えた。「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」の3分野にまたがる教科の特性にも配慮すると、アフリカ州については2年生の歴史的分野で欧米列強の植民地支配を扱い、3年生の公民的分野では地域紛争や南北問題について触れることになる。このことも踏まえて、1年後2年後の学習にもつなげられるよう、単純な地理的知識の習得に留まらないよう十分な思考や意見交換の場を設定する必要がある。このねらいからも、アフリカ州は「モノカルチャー経済からの脱却」という州全体の共通課題をかかえる地方的特殊性が強く、生徒の地理的思考力の育成を目指すために適する単元であるといえる。

(3) 研究主題との関連

本校の研究主題

学びに向かう力を育む指導法の研究
—主体的な学びの実現を通して—

本校社会科の研究主題

社会の様子を見つめ、主体的に社会参画できる力を育む指導法の研究
—学習方法・学ばせ方の工夫を通して—

本単元は「アフリカ州のモノカルチャー経済の現状と今後」をザンビア共和国を例に考えていき、最終的に自分の言葉でSDGsの観点からその発展の重点課題を探ることで、日本とのつながりもあるアフリカ州の発展を考えることに重点を置きたいと考えている。それを考えることで、我が国における社会事象も他国の地理的事象との関連があることに気づかせ、主体的に社会参画できる力を育む機会としたい。また、生徒一人一人が、近隣のアジア以外の他の地域とも更に良いパートナーシップを目指し、今後、3年生の公民でも学ぶ「地球社会と私たち」につながるような土台となる視点を身に付けるよい機会とさせたい。そのような工夫をすることで、研究主題にあるような「主体的に社会参画できる力」を育成することにつながると考えた。その際の学習方法は、上記の生徒の実態を踏まえ、グループによる話し合い、ジグソー学習と発表方法を工夫していきたいと考えている。

千葉市教育研究会 国際理解教育部会 研究主題

心の国際化から、共に生きる社会へ
—国際性豊かな児童生徒の育成を目指して—

本部会の研究課題(1)は「国際社会に主体的に対応できる自己を確立し、共に生きる社会を築こうとする国際感覚豊かな児童生徒の育成をするための各教科等や特別の教科道徳における指導法」であるが、この指導法を、今回は社会科の授業でザンビアの発展について考える授業を行うことで研究していきたい。

3 単元の目標と内容

(1) 目標と評価基準

目標	○アフリカ州の自然・歴史と文化・産業の特色について、資料から基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ◎モノカルチャー経済を基盤とするアフリカ州の課題と今後の展望を考える。			
	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
評価基準	○アフリカの地域 的特色を理解する ために主題を考 え、意欲的に追 及している。 ○アフリカ州の課 題を、SDG s の1 7のゴールから 考え、意見交換 することができる。	○読み取った統計資料 からアフリカの地理 的特徴について考察 する。 ○アフリカのモノカル チャー経済からの変 化を自立に向けての 様々な努力を踏まえ て考察し、他者にそ の意見を伝えること ができる。	○アフリカの自然、歴史 と文化、産業の特色に ついて、雨温図、分布 図、写真などの資料か ら特徴を見つけ出すこ とができる。 ○アフリカのプランテー ション農場やモノカル チャー経済の実態につ いて主題図や貿易統計 を読み取る。	○アフリカの地理的 な基本情報を理解 する。 ○アフリカの課題に ついて、都市化、 人口増加、歴史的 背景などから多角 的に理解する。

(2) 指導と評価の計画 (全4時間扱い・本時4/4)

時	学習活動	主な支援	具体的な評価基準
	アフリカ州をながめて(地形・気候・歴史)		
1	1 広大な砂漠が広がるアフリカ州の 地形を大観する。(サハラさばく・ ナイル川・ギニア湾・赤道と本初子 午線の位置) 2 降水量の分布から気候区分の特色 を考える。(ラバト・カイロ・ケー プタウン・リーブルビル) 3 人口分布の特色を考える。 4 アフリカの歴史的なあゆみを確認 する。 5 植民地化による様々な問題(公用 語・伝統文化・産業開発)について 知る。 6 SDG s についての紹介	○これまでに使ったアジア州と ヨーロッパ州と同じ方法で地 形・気候・歴史の順で大観し ていく。 ○アフリカ州の課題を考えてい く上での視点として SDG s を紹介する。	○アフリカ州に興味を 持ち、資料から必要 事項を読み取ってい る。 (ワークシート) ○SDG s について知ろ うとする。(カードゲ ームへの取り組み)

アフリカの産業（農業・鉱工業）と新たな開発

2

- 1 世界に輸出されるカカオを例にプランテーション農業について知る。
- 2 アフリカの主な農産物の分布図を作成する。
- 3 アフリカの鉱工業の分布図を作成する。(石油・金・ダイヤモンド・銅・レアメタル)
- 4 1～3の活動をもとに、農業と鉱工業の問題について考え、班と全体で意見交換を行い、全体で確認する。
- 5 モノカルチャー経済のしくみと問題点を個人でまとめる。
- 6 アフリカ州を動態地誌の視点から理解する学習の「主題」を考えて設定する。

○最終的にこの州の「主題」となるモノカルチャー経済について二方向から資料の提示と読みとりを行う。

○分布図を完成させ、それをもとにモノカルチャー経済について理解している。(発表・ワークシート)

おもな生産品にたよるアフリカ州の生活の課題と今後の展望を考えよう

アフリカの課題と展望

3

- 1 第1時・第2時で学んだ事象（地形気候・農業・鉱工業・貿易・就労）と第2時で設定した「主題」を確認する。
- 2 アフリカの課題について、都市化、人口増加、環境問題などの視点から理解する。
- 3 考えた原因を班で伝え合い、班としての意見をまとめる。
- 4 4の発表と意見交換を行う。
- 5 自立に向けた努力についての事例を知る。(地域統合・先進工業国からの援助)
- 6 5と6を踏まえて個人で今後の課題を考えを文章にまとめる。
- 7 教師が見たザンビア共和国についての情報を聞く。
- 8 第1時で扱ったSDGsについて復習する。

○第1時第2時の学習内容を活用させられるように資料を提示する。

○最終的なひとつの答えが存在しないということにも触れ、多角的な意見を出させる。

○次回はアフリカの中のこの1か国をとりあげてSDGsの観点から具体的に考えていくことに触れる。

○アフリカ州の今後の課題について話し合いに参加し、自分の考えをまとめることができる。
(話し合い・ワークシート)

ザンビアの課題と今後の展望をSDGsの17のゴールから考えよう		
<p>4 (本時)</p>	<p>1 ウォーミングアップのためSDGsカードゲームを行う(ババ抜き)</p> <p>2 ザンビアの基本情報復習(面積・人口・言語)</p> <p>3 エキスパート資料</p> <p>教師が撮った写真と解説の3種類の資料を担当者ごとに読み取り、概要をまとめる</p> <p>4 ジグソー学習</p> <p>①～③の資料読んだメンバーが混ざりようでグループを作り、それぞれが持つ情報を共有する。</p> <p>5 今後のザンビアの課題として最も重要だと思うものを①～③からグループ内でひとつ選ぶ。</p> <p>6 ジグソー学習の班ごとの発表</p> <p>7 まとめ</p>	<p>○パワーポイントを使用、ザンビアの概要について説明する。</p> <p>○資料の読み取りを的確に行っている。(話し合い)</p> <p>○教師によるグループ設定</p> <p>○ザンビアの課題とSDGsそれぞれの知識を複合して考えまとめることができたか。(発表・ワークシート)</p> <p>○17の目標のうち当てはまると考えるものを選ぶよう説明する。</p>

4 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

ザンビアにおけるモノカルチャー経済の課題と今後の発展の展望について、ジグソー学習を行って意見交流を行い、SDGsの視点と関連付けて自分の意見をまとめることができる。

(2) 本時の展開(4/4)

段階	学習活動	○主な支援	評価
導入 (10)	1 ウォーミングアップのためSDGsカードゲームを行う(ババ抜きの簡略版)	○前回までに学習した17のゴールについてカードゲームをしながらそれぞれ思い出させる。	

	<p>2 ザンビアの基本情報復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ザンビアの面積、人口、言語 ・ 1964年東京オリンピック期間中に独立 ・ 銅の国際価格上昇と発展するザンビア ・ 広がる格差 ・ 医療水準 ・ 教育水準 <p>【本時の目標確認】</p>	<p>○前時の復習を兼ね、既習事項から生徒たちに自由に発言させる</p>	
ザンビアの課題と今後の展望をSDGsの17のゴールから考えよう			
展開 (30)	<p>3 エキスパート資料を読み取る</p> <p>教師がザンビアで撮った写真と解説の6種類の資料を担当者ごとに読み取り、概要をまとめる</p> <p>Ⓐ医療 Ⓑ教育 Ⓒ貧富の差</p>	<p>○各グループに資料の読みとりのポイントを提示する。</p> <p>○班での活動で全員が意見を言えるように全員に個人の意見を持たせる。</p>	<p>資料を読みとり自分の意見を持つことができる。 (ワークシート)</p>
	<p>4 ジグソー学習を行う</p> <p>Ⓐ～Ⓒの資料読んだメンバーが混ざるようにグループを作り、それぞれが持つ情報を共有する。</p>	<p>○日ごろから他教科でもグループ活動を行っていて意見交換がしやすい生活班をもととする。</p> <p>○Ⓐ～Ⓒが混ざるようにグループを再構成する。</p>	<p>グループで相談しながら、意見をまとめることができる。 (ワークシート)</p>
	<p>5 今後のザンビアの課題として最も重要だと思うものをⒶ～Ⓒからグループ内でひとつ選び、その将来のために最も重視したい項目をSDGsの17のゴールから選択する。</p>	<p>○最終的なひとつの答えが存在しないということにも触れ、多角的な意見を出させる。</p> <p>○17のゴールのうち1つに絞れない場合は2つでもよいことを助言する。</p>	
まとめ (10)	<p>7 5と同じ質問を現在ザンビアで活動中のJICA関連の日本人数人にした際の回答を聞く。</p>	<p>○ザンビアのSDGs達成状況を紹介する。</p>	<p>自分の意見を文章にまとめることができる (ワークシート)</p>
	<p>8 感想を書く</p>		

(3) 評価

ザンビアにおけるモノカルチャー経済の課題と今後の発展の展望について、ジグソー学習を行って意見交流を行い、SDGsの視点と関連付けて自分の意見をまとめることができたか。

(4) 板書計画


世界の諸地域 アフリカ州 ※ジグソー学習後各班が選んだものを掲示

おもな生産品にたよる生活の問題と今後の課題を考えよう

先生がザンビアで見てきたもの

Ⓐ医療 Ⓑ教育 Ⓒ貧富の差

※それぞれの写真を提示



★キーワード モノカルチャー経済・SDGs